

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

&lt;小規模多機能型居宅介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471901411
法人名	社会福祉法人心の会
事業所名	さくらの家二番館
訪問調査日	令和5年10月25日
評価確定日	令和6年1月10日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和5年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901411	事業の開始年月日	平成14年5月1日
		指定年月日	平成14年5月1日
法人名	社会福祉法人心の会		
事業所名	さくらの家二番館		
所在地	( 238-0026 ) 横須賀市小矢部4-15-8		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年10月16日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらの名所、衣笠山近くの自然にめぐまれた環境にあります。二番館からの景色はすばらしく、桜や新緑、紅葉が楽しめます。ご本人らしく笑顔で暮らせるように、お一人お一人の個性に気を配っております。食事には力を入れており季節にあった多彩な食事やカニやフグ等目で楽しめるようなメニューも提供しております。地域のイベントに関しては新型コロナウイルスにより自粛の影響はまだ残っておりますが、もともと外出行事も力を入れている所でしたので、再開に向けて話し合いをしております。現在はフロア内で行えるものは小さな企画から行っております。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和5年10月25日	評価機関 評価決定日	令和6年1月10日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は「社会福祉法人心の会」の経営です。同法人は横須賀市内で特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・訪問介護・居宅介護支援・グループホーム、就労継続支援・障害者グループホーム・障害者相談サポートセンターなどの介護事業から内科診療所まで展開しており、介護と医療の両方から利用者を支えるサービスを提供しています。ここ「さくらの家二番館」は京浜急行「横須賀中央駅」からバスで「衣笠山公園」のバス停より徒歩10分程の高台の住宅地の一面にあり、直ぐ前には、さくらの名所「衣笠山公園」もある、静かで自然豊かな場所に位置しています。道路からの入り口が3階になり2階と合わせて2ユニットのグループホームで1階は法人の事務局になっています。

●毎月「生活便り」と不定期ですが「さくらの家便り」で行事や生活の様子など写真と文章で作成して郵送しています。家族へは、利用者の様子など必要に応じ電話で月1回以上は連絡して意見、要望など聴いています。頂いた内容は申し送りや、連絡ノートで情報を共有し、運営に反映させています。

●食事には特に力を入れ、さくらの家の特徴として「美味しいお食事」に取り組んでいます。多彩なメニューは、法人の栄養士が作成し食材は、地元の八百屋、魚屋、肉屋などへ発注しています。調理は職員が行い利用者も野菜切りなどの下拵えや、盛り付けなど手伝っています。地元の新鮮な食材がほぼ毎日届けられるため、食卓に魚の刺身が出ることも有ります。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	さくらの家二番館
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「充実した生活の場となる」を事業所独自の理念としています。自宅にいた以上の多彩な活動を通して、いきいき生活を行える様に取り組んでいます。また、法人理念と共に、毎年職員に対し理念の再確認とケアの方向性について学習の機会を作っています。職員は理念に基づき入居者様ケアに取り組んでいます。地域の介護相談などに限らず、防災拠点となり、地域に貢献を目指して活動を行っている。	法人の理念は「人生を楽しんで頂くための福祉」など5項目からなり、これを基に事業所の理念「充実した生活の場となる」を決めています。理念は事務室に掲示して、年度初めや、毎月のフロア会議で理念の再確認をしています。フロア会議では、事例を出して理念を噛み砕き、職員が出来る事について話し合っています。「さくらの家」全体で、地域の介護相談や、防災拠点となる活動を実施しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベント・清掃等に毎年参加して、交流を続けていたが、新型コロナウイルスの為、行事の中止している。地域の方とは、関係を継続していく為、ご挨拶等を行っている。草刈など地域に協力する事を模索し、町内会へ打診をしている。	地域の自治会に加入し回覧板により地域の情報を把握しています。コロナ感染後少しずつ地域の行事が再開し、声を掛けて頂いています。現在地域や、外部の方との交流を一部自粛していますが、今後法人の許可が出次第参加の予定です。地域の方との関係を継続していく為、職員の出退勤時や、散歩時には挨拶を励行しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解については、地域の等の関りの中で得られているが、新型コロナウイルスの為、直接の関りを持つことはできなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、新型コロナウイルスの為、電話等でお互いの近況について、意見交換を行い、地域の状況を教えて頂く事ができた。2023年7月より対面式の会議を再開している。	コロナ禍で書面での運営推進会議を開催していましたが、7月からは対面で開催しています。地域包括支援センター職員、民生委員、地域代表、家族代表等の参加で、事業所から現状や活動状況、事故などの報告を行い参加者から意見や、地域情報などいただきサービスの向上に活かしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルスの対応などについても、気軽に相談を受けてくれるなど協力関係が築けていると思う。	昨年と今年のコロナ感染時には、横須賀市や横須賀保健所との相談や連絡、報告など密に取り対応しています。通常は横須賀市との連絡は法人が主になり、事業所へは法人から情報が伝達されています。グループホーム協議会は、現在保留の状態になっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、第三者の意見を取り入れる様にしている。職員には、内部研修と事例検討を通して、正しい理解に努め、身体拘束のないケアを実施している。明らかな拘束だけでなく、言葉遣いなどの精神面についても話し合い、理解を深める様に取り組んでいる。	身体拘束委員会を運営推進会議の中で開催し第三者の意見も取り入れています。会議内容は議事録の回覧や、フロア会議でも職員にフィードバックしています。身体拘束に関する指針や、マニュアルを整備しています。職員研修は年2回以上行い、フロア会議では事例検討を行い正しい理解に努め身体拘束の無いケアを実施しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待委員会の設置し、第三者の意見を取り入れている。虐待に関しても、コロナの為、内部研修を中心に行い、虐待チェック表の実施やフロア会議などでの意見交換などを通して、虐待防止に努めている。	高齢者虐待委員会を身体拘束委員会と同様に開催しています。虐待の防止についての指針やマニュアルは現在見直し中です。職員研修は内部研修を中心に行っています。年2回は自己点検シートにより職員全員でチェックし、フロア会議などの意見交換を通して、虐待防止に努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や、フロア会議でも取り上げ、フロアの職員にも制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度については、実際に活用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で、一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様に行っている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者がご家族様との関係を構築している為、遠慮なく意見を頂けている。意見に関しては、運営会議の場での検討も行い、要望を受け入れ、反映できる様になっている。	入居時には重要事項説明書にて苦情相談窓口の説明をしています。毎月「生活便り」と不定期ですが「さくらの家便り」で行事や生活の様子など写真と文章で作成して郵送しています。家族へは、利用者の様子など必要に応じ電話で月1回以上は連絡して意見、要望など聴いています。いただいた内容は申し送りや、連絡ノートで情報を共有して、運営に反映させています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の場に法人の代表が参加し、その場で細やかな意見交換を行う場が設けられている。フロア会議等で出た意見を直接、提案できる。その為、サービス向上や働きやすい職場環境づくりを行えている。	毎日の申し送りや、日常の気づきなどは連絡ノートを使用して職員の意見等聴いています。毎月開催のフロア会議では活発な意見交換が行われ、必要なことは迅速に対応しています。運営に関することなど上長判断が必要な意見や、提案は、法人の代表が参加する運営会議に報告しています。	今後の継続	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営委員会があり、さくらの家運営会議などで出た意見や課題を検討する場が設けられている。職員奨励なども検討し、個々の努力なども評価させる場がある。	管理者との個人面談は定期で年1回あり、必要に応じた面談も実施しています。個人面談では、人事考課表による自己評価と管理者評価があり、個人目標なども含めて話し合いをしています。資格取得については、法人が認めた者には研修費や交通費等の補助があります。永年勤続者や、年間優良者についての表彰制度もあります。	今後の継続	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さくらの家の正職員が参加する向上委員会があり、研修や学習・意見交換などをする機会を設けている。向上委員会で学んだ事を各フロアの職員と一緒に課題を取り組み、全体のスキルアップを図っている。	新人研修は事業所の常勤職員によるOJTで実施し、習得度により研修期間を決めています。常勤職員が参加する向上委員会では、研修や学習・意見交換などを実施しています。常勤職員は向上委員会で学んだ事を各フロアの職員と一緒に課題を取り組み、全体のスキルアップを図っています。	今後の継続	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウィルスの為、行えていなかったが以前のように研修会や地域の集いに参加し情報の共有を行って行ければと考えております。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、事業所の特徴などをご本人様に説明し、困難や要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問し、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には、ご家族様の話をよく聞き、信頼関係をつくる努力をするとともに、ご家族様のニーズなどを理解できるように努めている。入居前には、自宅に訪問して、アセスメントを取り、意向やニーズの把握に努め、入居してすぐに適切なケアが始められる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や見学際に状況をお聞きして、困っている事などへの理解に努め、必要に応じたアドバイスをする様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りなどをして生活を共有したり、若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に職員のみ意見だけではなく、ご家族様と相談しながら行っている。病院受診などにも付き添いをして頂くなど共に支え合っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様にしている。面会も常に受け入れて、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。	現在面会は、居室で20分程の時間制限で行っています。手紙や年賀状の遣り取りの支援や、携帯電話や事業所の電話での遣り取りの支援も行い家族や友人との関係が途切れないように支援しています。遠方の家族とタブレットによるTV電話をする利用者の支援をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、トラブルを未然に回避するようにしている。座席など環境を工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が間に入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様が朗読ボランティアとして、来てくださるなり、関係が継続していたが、新型コロナウイルスの為、現在は受け入れを行っておりませんでした。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報、ご本人様の思いや希望などを聞き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情・行動などから察して、ご本人様の思いに沿えるよう会議等で出来る事を見つけ支援につなげている。	入居前面談では、自宅や施設に伺い本人、家族、居宅のケアマネージャーから、生活歴、既往歴、趣味、嗜好、今後の暮らし方の希望などについて聴き取り、思いの把握に努めています。入居後や日々の気づき等は、連絡ノートの記入や、フロア会議で情報共有し、利用者の思いに添える支援をしています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初に把握している生活歴と、生活の中でのご本人様との会話から、昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聞いたりして、新たな情報を集めている。ご家族様にも、ご本人様との会話の中のやり取りを伝え、新たな情報を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をケースにとり、個人の症状や状態の情報を集めている。毎日の個々の申し送り・毎月のカンファレンス・フロア会議にて状況を把握、確認し、ご本人様の力に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、ご家族の希望やご本人様との会話などからの希望に沿って検討している。医師や看護師などにも相談して、様々な角度から検討し、その人らしい生活が送れる様にしている。	初回の介護計画は、家族や居宅のケアマネジャーの情報を参考に作成して1~2ヶ月様子を見ています。情報との変化が無ければ継続し6ヶ月を基準に介護計画の更新をしています。介護計画のモニタリングは計画作成担当が行い、毎月のフロア会議で気になる方の検討を実施しています。更新時にはサービス担当者会議を開催して、医師、看護師、家族等の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践、結果、気づき等は、個別の記録に記入し、申し送りにて毎日新しい情報の共有をしている。更に、記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別にご家族の状況やご本人の希望について、その都度柔軟な姿勢で相談にのり、対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや町内会などとの交流が盛んな事から、お互いの情報交換はおこなっている。新型コロナウイルスの為、行事やイベントなどは行われていないなかったが、これか徐々に活動が再開されるのでアンテナを広げ情報をとる様に心がけている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談し、紹介などで専門医へ移行する際は、ご家族様の納得の上で変更をして頂き、適切な医療が受けられる様にしている。	入居時に協力医療機関の説明し、本人や、家族の希望を尊重して主治医を決めて頂いています。協力医療機関が24時間対応が可能なおことあり、内科医は全員の利用者が契約しています。歯科は定期的な口腔ケアや、義歯調整等で月1回の往診があります。マッサージを受ける方も数名います。職員の看護師が週3回来て、利用者の健康管理と職員からの医療相談に対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医師とカンファレンスを行い、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院出来るように取り組んでいる。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当時には、事業所の特徴を明確につたえ、実際に必要となった場合には、さまざまな選択しをもって相談を行い、ご本人にとって一番良い最後の場所を一緒に考える様にしている。かかりつけ医とも協力し、ご家族様の希望に沿う様、身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施している。	入居時に重度化した場合における対応等を重要事項説明書を基に説明しています。心身の変化が見られた際には、主治医からの説明や、家族と話し合いの場を持ち、本人にとって一番良い最後の場所を一緒に考え今後の方針を決めています。看取りを希望される場合は、看取り介護契約書を結び対応しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様一人一人の緊急マニュアル・応急手当マニュアルを作成して、速やかに対応できるように工夫している。各ユニットごとに内部研修を行い、緊急時等の対応に備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回は、避難訓練を行い、誘導や避難の方法を訓練している。地域の方への災害時のお互いの協力を呼びかけている。	防災訓練を年2回実施しています。訓練は避難・誘導を主に行い、発電機や水瓶の使い方についても訓練しています。コロナ以前には地域の方も参加していただき、避難誘導後の利用者の見守りなどお願いしています。防災設備点検を業者と一緒に年2回実施しています。備蓄品としてヘルメット、防災頭巾、カセットコンロ等と米を用意して他の食料は法人で準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様が主体となる生活を支援し、その方の育ってきた背景を大切にしている。個人の性格に合った言葉かけや対応を心がけている。	入職時に倫理、接遇、マナーなどについて説明し継続的な研修でも実施しています。日常では、その都度気になった対応があった時など、話し合いをしています。声掛けなどは一律では無く、利用者の個性に合わせた対応を心がけています。職員は「法人の職員の心得」を常に携帯し、一人ひとりの人格の尊重や、プライバシーに配慮した対応をしています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や買い物希望などの意志表示に対して、タイムリーに支援を行う事で、希望を出しやすい環境に努めている。飲み物などでは、好きな飲み物だけでなく、味の好みまで意識した働きかけを行っている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由にして頂いている。入浴の希望の時間や回数・散歩や余暇活動などの支援など意向に添うケアを取り入れ実施している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに合った洋服で生活して頂いている。ヘアスタイルでは、パーマや毛染めなども行い、おしゃれへの支援を行っている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かして、出来ることを主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどの食事の支度を一緒に行っている。片付けも個々の能力に合わせて行っている。	食事には特に力を入れ、さくらの家の特徴として「美味しいお食事」に取り組んでいます。多彩なメニューは、法人の栄養士が作成し食材は、地元の八百屋、魚屋、肉屋などへ発注しています。調理は職員が行い利用者も野菜切りなどの下拵えや、盛り付けなど手伝っています。地元の新鮮な食材がほぼ毎日届けられるため、食卓に魚の刺身が出ることも有ります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちの方には、チェック表を作成し確保出来るように支援している。個別に、減塩・補食・形態別・減量などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・介助などに分けて、実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。	排泄のパターンやリズムは把握出来ており、必要な方のみ排泄チェック表を付けています。オムツを使用する方がいますが、夜間のみで昼間はリハビリパンツに替え、トイレで排泄しています。必要な方のみ声かけや、定期的なトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と対応をしている。繊維物や水分の摂取・運動、ラジオ体操など個別に行い予防している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方の希望に沿って、回数・順番など好みに合わせた入浴を提供している。入浴は、ほぼ毎日実施していて、その日の希望に対しても実施している。	入浴は週2回、午後と決めてはいますが、利用者の希望や、状態により入浴回数を変更したり午前入浴も実施しています。入浴時にはバイタルチェックや、全身の皮膚チェック、水分補充をして安全な入浴を支援しています。入浴時の同性介助の支援や、冬場の入浴剤の使用、ゆず湯、菖蒲湯の対応をして楽しんで頂いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩など、体力や状態に合わせて行っている。就寝起床時間は生活リズムに合わせて、個々のタイミングで支援し、日中に外気浴を行うなどして安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見出せる様に、習字や漢字・料理・洗濯など得意としている事への場面づくりの支援をしている。天気の良い日の散歩やコーヒーなどの嗜好品の提供など支援をしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力により、外食や知人への訪問などをして頂いている。買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出られる機会を設けている。	天気や気候の良い時には、事業所の周辺を15分位かけ散歩しています。家族の協力で面会時一緒に散歩する方もいます。建物の屋上は広くベンチや物干し台が置いてあり、利用者はエレベーターを使用して行き外気浴など楽しんでいきます。コロナ以前は、ドライブで色々な場所へ外出していましたが現在は自粛しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方が現在はおらず、お小遣いとして預かり、ご本人の欲しいものなどがある機会には、希望で使える様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、電話をかけたり、受けた電話を本人に回したりと支援している。手紙も自由にやり取り出来る様にしている。必要に応じて代筆等の支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家全体が落ち着いた家庭的な雰囲気になっている。照明にも刺激の無いように配慮している。ご入居者様の馴染みのある物や季節の草花・作品などを飾り、温かい空間作りを行っている。	リビングや廊下などは家庭的な雰囲気を大切に、落ち着いて過ごせる空間になっています。明るくなり過ぎないように照明やカーテン等で調節しています。周囲の壁面には利用者と一緒に作成した季節や行事の飾り付けがしてあります。窓からは衣笠山公園の森を望むことができ季節の移ろいを感じられます。掃除は、利用者も手伝い毎日朝食後に行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるソファがあり、利用者同士が過ごしたり、1人になれる場所を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様に工夫している。	各居室にはエアコン、クローゼット、介護用ベッド、洗面台、防災カーテンなど完備されています。使い慣れたテレビ、タンス、机と椅子、家族写真、仏壇など持ち込まれ安全なども考えた配置にしています。居室で家族とTV電話をする方や、野球中継を観る方、趣味の書道をする方などいます。居室の整理整頓や衣替えは職員が手伝い行っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で歩行の導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。部屋の入口に名札等を飾って自室の確認が出来る様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 さくらの家二番館

作成日 令和5年10月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49(21)	外出行事等のイベント企画を定期的に行っていたが、新型コロナ流行をきっかけに実施が困難になり、行わないのが通常になってしまっている。	外出行事やイベントを定期的に行う事が習慣化される。 それに必要な職員の意識やスキル利用者様の意識や体力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節や地元になんだもの、入居者様のニーズに合わせた行事を企画する</li> <li>・フロア単位だけでなく、2階・3階が協力し合同でもできる行事を企画する</li> <li>・30分～1時間程度のドライブ実施</li> <li>・主に市内の屋外施設(ソレイユの丘、しょうぶ園等)への外出企画</li> <li>・外出以外でも、屋内でできるものや、施設の屋上で実施できる企画をする(花火や屋外での食事等)</li> <li>・利用者様の基礎体力作りとして、毎日の散歩や体操を実施する</li> </ul>	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	さくらの家二番館
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「充実した生活の場となる」を事業所独自の理念としています。自宅にいた以上の多彩な活動を通して、いきいき生活を行える様に取り組んでいます。また、法人理念と共に、毎年職員に対し理念の再確認とケアの方向性について学習の機会を作っています。職員は理念に基づき入居者様ケアに取り組んでいます。地域の介護相談などに限らず、防災拠点となり、地域に貢献を目指して活動を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベント・清掃等に毎年参加して、交流を続けていたが、新型コロナウイルスの為、行事の中止している。地域の方とは、関係を継続していく為、ご挨拶等を続けている。草刈など地域に協力する事を模索し、町内会へ打診をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解については、地域の等の関りの中で得られているが、新型コロナウイルスの為、直接の関りを持つことはできなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、新型コロナウイルスの為、電話等でお互いの近況について、意見交換を行い、地域の状況を教えて頂く事ができた。2023年7月より対面式の会議を再開している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの対応などについても、気軽に相談を受けてくれるなど協力関係が気づけていると思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、第三者の意見を取り入れる様にしている。職員には、内部研修と事例検討を通して、正しい理解に努め、身体拘束のないケアを実施している。明らかな拘束だけでなく、言葉遣いなどの精神面についても話し合い、理解を深める様に取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待委員会の設置し、第三者の意見を取り入れている。虐待に関しても、コロナの為、内部研修を中心に行い、虐待チェック表の実施やフロア会議などでの意見交換などを通して、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や、フロア会議でも取り上げ、フロアの職員にも制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度については、実際に活用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で、一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様にしている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者がご家族様との関係を構築している為、遠慮なく意見を頂けている。意見に関しては、運営会議の場での検討も行い、要望を受け入れ、反映できる様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の場に法人の代表が参加し、その場で細やかな意見交換を行う場が設けられている。フロア会議等が出た意見を直接、提案できる。その為、サービス向上や働きやすい職場環境づくりを行えている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営委員会があり、さくらの家運営会議などで出た意見や課題を検討する場が設けられている。職員奨励なども検討し、個々の努力なども評価させる場がある。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さくらの家の正職員が参加する向上委員会があり、研修や学習・意見交換などをする機会意を設けている。向上委員会で学んだ事を各フロアの職員と一緒に課題を取り組み、全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウィルスの為、行えていなかったが以前のように研修会や地域の集いに参加し情報の共有を行って行ければと考えております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、事業所の特徴などをご本人様に説明し、困難や要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問し、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には、ご家族様の話をよく聞き、信頼関係をつくる努力をするとともに、ご家族様のニーズなどを理解できるように努めている。入居前には、自宅に訪問して、アセスメントを取り、意向やニーズの把握に努め、入居してすぐに適切なケアが始められる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や見学際に状況をお聞きして、困っている事などへの理解に努め、必要に応じたアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りなどをして生活を共有したり、若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に職員のみ意見だけではなく、ご家族様と相談しながら行っている。病院受診などにも付き添いをして頂くなど共に支え合っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様にしている。面会も常に受け入れて、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、トラブルを未然に回避するようにしている。座席など環境を工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が間に入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様が朗読ボランティアとして、来てくださるなり、関係が継続していたが、新型コロナウイルスの為、現在は受け入れを行っておりませんでした。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報、ご本人様の思いや希望などを聞き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情・行動などから察して、ご本人様の思いに沿えるよう会議等で出来る事を見つけ支援につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初に把握している生活歴と、生活の中でのご本人様との会話から、昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聞いたりして、新たな情報を集めている。ご家族様にも、ご本人様との会話の中のやり取りを伝え、新たな情報を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をケースにとり、個人の症状や状態の情報を集めている。毎日の個々の申し送り・毎月のカンファレンス・フロア会議にて状況を把握、確認し、ご本人様の力に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、ご家族の希望やご本人様との会話などからの希望に沿って検討している。医師や看護師などにも相談して、様々な角度から検討し、その人らしい生活が送れる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践、結果、気づき等は、個別の記録に記入し、申し送りにて毎日新しい情報の共有をしている。更に、記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別にご家族の状況やご本人の希望について、その都度柔軟な姿勢で相談にのり、対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや町内会などとの交流が盛んな事から、お互いの情報交換はおこなっている。新型コロナウイルスの為、行事やイベントなどは行われていないなかったが、これか徐々に活動が再開されるのでアンテナを広げ情報をとる様に心がけている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談し、紹介などで専門医へ移行する際は、ご家族様の納得の上で変更をして頂き、適切な医療を受けられる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医師とカンファレンスを行い、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院出来るように取り組んでいる。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当時には、事業所の特徴を明確につたえ、実際に必要となった場合には、さまざまな選択しをもって相談を行い、ご本人にとって一番良い最後の場所を一緒に考える様にしている。かかりつけ医とも協力し、ご家族様の希望に沿う様、身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様一人一人の緊急マニュアル・応急手当マニュアルを作成して、速やかに対応できるように工夫している。各ユニットごとに内部研修を行い、緊急時等の対応に備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回は、避難訓練を行い、誘導や避難の方法を訓練している。地域の方への災害時のお互いの協力を呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様が主体となる生活を支援し、その方の育ってきた背景を大切にしている。個人の性格に合った言葉かけや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や買い物希望などの意志表示に対して、タイムリーに支援を行う事で、希望を出しやすい環境に努めている。飲み物などでは、好きな飲み物だけでなく、味の好みまで意識した働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由にして頂いている。入浴の希望の時間や回数・散歩や余暇活動などの支援など意向に添うケアを取り入れ実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに合った洋服で生活して頂いている。ヘアースタイルでは、パーマや毛染めなども行い、おしゃれへの支援を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かして、出来ることを主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどの食事の支度を一緒に行っている。片付けも個々の能力に合わせて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちな方には、チェック表を作成し確保出来るように支援している。個別に、減塩・補食・形態別・減量などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・介助などに分けて、実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と対応をしている。繊維物や水分の摂取・運動、ラジオ体操など個別に行い予防している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方の希望に沿って、回数・順番など好みに合わせた入浴を提供している。入浴は、ほぼ毎日実施していて、その日の希望に対しても実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩など、体力や状態に合わせて行っている。就寝起床時間は生活リズムに合わせて、個々のタイミングで支援し、日中に外気浴を行うなどして安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見出せる様に、習字や漢字・料理・洗濯など得意としている事への場面づくりの支援をしている。天気の良い日の散歩やコーヒーなどの嗜好品の提供など支援をしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力により、外食や知人への訪問などをして頂いている。買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出られる機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方が現在はおらず、お小遣いとして預かり、ご本人の欲しいものなどがある機会には、希望で使える様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、電話をかけたり、受けた電話を本人に回したりと支援している。手紙も自由にやり取り出来る様にしている。必要に応じて代筆等の支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家全体が落ち着いた家庭的な雰囲気になっている。照明にも刺激の無いように配慮している。ご入居者様の馴染みのある物や季節の草花・作品などを飾り、温かい空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるソファがあり、利用者同士が過ごしたり、1人になれる場所を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で歩行の導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。部屋の入口に名札等を飾って自室の確認が出来る様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 さくらの家二番館

作成日 令和5年10月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49(21)	外出行事等のイベント企画を定期的に行っていたが、新型コロナ流行をきっかけに実施が困難になり、行わないのが通常になってしまっている。	外出行事やイベントを定期的に行う事が習慣化される。 それに必要な職員の意識やスキル利用者様の意識や体力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節や地元になんだもの、入居者様のニーズに合わせた行事を企画する</li> <li>・フロア単位だけでなく、2階・3階が協力し合同でもできる行事を企画する</li> <li>・30分～1時間程度のドライブ実施</li> <li>・主に市内の屋外施設(ソレイユの丘、しょうぶ園等)への外出企画</li> <li>・外出以外でも、屋内でできるものや、施設の屋上で実施できる企画をする(花火や屋外での食事等)</li> <li>・利用者様の基礎体力作りとして、毎日の散歩や体操を実施する</li> </ul>	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。